

# 啓発活動

## Training & Motivation

製薬協では、会員各社の環境安全への取り組みを支援するため、環境安全委員会で取り組んでいる課題について、行政の動向、環境技術等に関する最新情報の提

供や、会員会社間の情報共有化を推進するため、講習会やセミナー、技術研修会などを開催しています。

環境安全技術研修会 (2004年2月13日)		
医療廃棄物処理の現状と問題点	医療廃棄物研究所 渡辺 昇 氏 	医療廃棄物処理について、海外の体制との比較や技術的課題、今後の問題点等を整理した講演でした。
エアゾール缶の廃棄処理の実際 (エアゾール缶の適正処理について)	日化新菱株式会社 戸室 浩三 氏 松田 慎一 氏	引火や爆発の危険性があるエアゾール缶を安全に処理し、リサイクルする設備と技術について紹介されました。
曝露・リスク評価大気拡散モデル (ADMER) の開発	独立行政法人 産業技術総合研究所 化学物質リスク管理研究センター 東野 晴行 氏	化学物質の地域の環境中濃度分布を推定し、リスク評価に用いるモデルが紹介されました。PRTRなどで得られた化学物質排出量データのチェックにも用いることができます。
METI-LIS (ver.2) モデルの紹介 ～ 発生源周辺における大気環境影響予測のために ～	独立行政法人 産業技術総合研究所 化学物質リスク管理研究センター 吉門 洋 氏	工場などから大気中に排出される物質の周辺大気中濃度分布が、排出量と気象条件のデータがあればパソコン上で求められるモデルが紹介されました。
第28回環境講演会 (2004年4月15日)		
環境と両立した企業経営と環境ビジネスのあり方	経済産業省 環境調和産業推進室 國友 宏俊 氏 	産業構造審議会環境部会で検討されてきた企業経営・市場・地域政策・国家政策の4つのグリーン化提言について講演を頂きました。
企業経営を巡る世界の流れ (CSRを中心に)	UNEP FIアジア・太平洋地区 特別アドバイザー 末吉 竹二郎 氏 	企業の評価は財務面に加え、環境及び社会的責任も含めて総合的に判断しようとする動きが主流になってきています。企業の社会的責任に企業トップが果たす役割等について、欧米の最新動向を交えての講演でした。
(2004年7月30日)		
環境ISO ～環境経営の実現に不可欠なツール～	(株)イーエムエスジャパン 寺田 博 氏	本業を指向したマネジメントとしてのISO14001は、製品・サービスに伴う環境影響の緩和の効果が大きいことから、経営のトータルマネジメントシステムのモデルツールのひとつとして活用を奨める講演でした。
医薬品製造設備の安全評価 ～ケミカルハザード対策を例として～	日揮(株) 渡辺 恵市郎 氏	エンジニアリング会社のリスクマネジメントへの取り組み状況の概要、及び設備の安全評価のためのリスクマネジメントの考え方、リスクアセスメント手法について事例を示しながら解説頂きました。

第8回省エネ技術研修会(2004年10月14・15日)		
新エネルギー施策について	経済産業省・ 関東経済産業局 古郡 靖氏 	温暖化ガスの削減に向けて、燃料電池や太陽光発電、風力発電等の再生可能エネルギーの技術開発及び利用促進が進められています。新エネルギーに関する環境整備等の政策について解説頂きました。
分散型社会に向けた 小型燃料電池システムの開発	東京ガス(株) 円角 健一氏	集中電源と分散電源(自家発電)のベストミックスを考えたときに、今後の小型分散型電源の代表例が燃料電池であり、その特長と今後の技術上の課題等について講演を頂きました。
新エネルギーの 有効活用について	(株)きんでん 川田 直樹氏	製薬業界に導入可能な新エネルギー設備を、他業種への導入事例を参考に考察し、太陽光発電設備は製薬工場などに導入の検討対象になるとの提案を頂きました。
電力貯蓄用NAS 電池システムの 有効活用について	東京電力(株) 田中 晃司氏	電気を貯蔵する技術として、クリーンでメンテナンスが容易なNAS電池が開発されました。NAS電池の特長と今後について紹介頂きました。
省エネ推進のための 環境会計の活用	富士通(株) 功刀 昭志氏	省エネルギー対策の費用対効果を、環境会計の手法を活用し明確にする方法を具体例をもとに解説して頂きました。
ISO14001による省エネ活動	大塚製薬(株) 朱 吉男氏	ISO14001の活用により、省エネルギーを工場全体の最重要活動対象に位置付け、全員参加で成果をあげた事例が発表されました。
省エネアンケート及び GHG研究報告	製薬協環境安全委員会 省エネ・温暖化防止部会 中嶋 和夫氏 広住 実氏	製薬協会会員会社を対象に実施したエネルギー使用およびCO <sub>2</sub> 排出量調査結果が報告されました。また、温暖化ガスの算定方法についての検討内容が発表されました。
第11回環境安全セミナー(2004年11月26日)		
企業の説明責任を どう果たすか	GRI日本フォーラム・ 社会的責任投資 フォーラム代表幹事 後藤 敏彦氏 	企業価値を向上させるためのCSRとは何かを考えると、企業の説明責任の根拠が明らかになるという論点で、日米欧の具体的なCSR取り組みやGRIの活動について講演を頂きました。
リスクコミュニケーションの 事例紹介	コニカミノルタビジネスエキスパート(株) 岡庭 憲一郎氏	コニカミノルタの事業所で実施されている近隣住民とのリスクコミュニケーションが、事例で紹介されました。
3R推進協議会会長賞 受賞記念講演	●アベンティスファーマ(株)川越事業所 佐野 昭氏 ●大正製薬(株)羽生工場 村岡 洋一氏 ●山之内製薬(株)西根工場 佐藤 精一氏	
2003年度 委員会活動実績報告	●PRTR調査ならびに自主管理計画フォローアップ調査報告 化学物質管理部会 猿渡 隆夫氏 ●省エネルギー・地球温暖化防止に関する調査報告 省エネ・温暖化防止部会 木村 一夫氏 ●廃棄物発生・処理状況調査結果 省資源・廃棄物対策部会 畠中 孝雄氏	